

鳥取縣公報

縣令

昭和十六年三月三十一日
號 外

月 曜 日

本書ノ大キクハ國定規格A5判

鳥取縣令第十三號 市町村罹災救助資金補助規則ノ通定ム

昭和十六年三月三十一日

鳥取縣知事 八 田 三 郎

市町村罹災救助資金補助規則

第一條 市町村ニ於テ罹災者ヲ救助スルタメ資金ヲ蓄積スルトキハ本則ニ依リ罹災救助基金ヨリ之ヲ補助ス

第二條 本則ニ依リ補助ヲ受ケムトスル市町村ハ罹災救助資金條例ヲ設ケ本則施行ノ日ニ於ケル各市町村ノ戸數一戸ニ付金五圓ニ該當スル額ヲ最少額トシ其ノ額ニ達スル迄毎年度市町村費ヲ以テ一戸ニ付金五拾錢以上ニ該ル金額ヲ積立ツルコトヲ要ス 最少額ニ達シタル後之ヲ下ルニ至リタルトキ亦同ジ

第三條 市町村財政ノ窮迫其ノ他止ムヲ得ザル事由アルトキハ前條ノ積立ヲ減額又ハ停止スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ其ノ事由ヲ具シ知事ノ認可ヲ受クベシ

第四條 縣ハ罹災救助資金ノ補助トシテ罹災救助基金ヨリ毎年度壹萬五千圓ヲ限度トシテ第二條ノ積立金ニ對シ其ノ二分ノ一以內ヲ補助ス但シ資金蓄積額ガ本則施行ノ日ニ於ケル市町村ノ戸數一戸ニ付拾圓以上ニ達シタル市町村ニ對シテハ此ノ限ニ在ラズ
前項補助ハ寄附金又ハ資金ヨリ生ズル收入ヲ以テスル積立ニ對シテハ補助セズ

第五條 罹災救助基金ニシテ多額ノ支出ヲ要シ罹災救助基金法第三條ノ最少額ヲ下ルニ至リタルトキハ其ノ最少額ニ復シ且補

助ヲ爲スモ支障ナキ程度ニ達スルニ至ル迄ノ間本則ニ依リ補助ハ之ヲ中止ス

第六條 罹災救助基金ニシテ罹災救助基金法第三條ノ最少額ヲ下ルニ至ラズト雖モ縣ノ罹災救助ニ著シキ支障ヲ生ズル虞アルトキハ第四條第一項ノ補助額ノ限度ヲ低減スルコトアルベシ

第七條 罹災救助基金ハ特別會計トシ國債證券、地方債證券、勸業債券、日本興業銀行債券、農工債券ノ應募者ハ買入又ハ郵便貯金若ハ確實ナル銀行ニ預入レ増殖ヲ圖ルベシ 但シ年度初現在戸數一戸ニ付概ネ金壹圓ニ該當スル金額ハ之ヲ現金又ハ郵便貯金若ハ確實ナル銀行當座預金トシテ保管スベシ

第八條 罹災救助資金ヨリ生ズル收入ハ總テ罹災救助資金ニ編入スベシ

第九條 罹災救助資金ノ管理ニ要スル費用ハ之ヲ罹災救助資金ヨリ支出スルコトヲ得ズ

第十條 罹災救助ノ爲罹災救助資金ヲ支出スベキ費目、支出額及助ヲ命ズルコトヲ得

給與方法ハ罹災救助基金法救及罹災救助基金ノ支出ニ關スル規定ニ準ズベシ

第十一條 罹災救助資金ノ蓄積額ガ第二條ノ最少額以上ニ達シタル市町村ニ於テハ毎年度其ノ前年度ニ於テ資金ヨリ生ジタル收入ヨリ其ノ年度ノ救助費及資金運用上ノ損失ヲ控除シタル殘額ノ二分ノ一以內ノ金額ヲ限り該最少額ヲ下ルニ至ラザル範圍内ニ於テ之ヲ救護法施行ニ要スル經費ニ充ツルコトヲ得

第十二條 市町村ニ於テ市町村ノ永久ノ利益トナルベキ事業ノ爲又ハ天災地變等ノ爲必要アルトキハ市町村會ノ議決ヲ經テ第二條ノ最少額ヲ超ユル金額ニ限り一般會計ニ繰入使用スルコトヲ得

第十三條 罹災救助資金ハ之ヲ廢止スルコトヲ得ズ

第十四條 本則ニ依リ補助ヲ受ケムトスル市町村ハ當該豫算書寫ニ積立ヲ了シタル證書書類ヲ添付シ毎年度十二月二十八日迄ニ知事ニ申請スベシ

第十五條 罹災救助資金ノ補助ハ前條ノ申請ニ依リ之ヲ交付ス

第十六條 本則ノ規定ニ違背シタル市町村ニ對シテハ既ニ交付シタル補助金ノ全部又ハ一部ヲ返納セシムルコトアルベシ

訓 令

鳥取縣訓令第七號

市町村罹災救助資金監督規定左ノ通定ム

昭和十六年三月三十一日

鳥取縣知事

入 田 三 郎

市 町 村 長

第二條 市町村罹災救助資金補助規則ニ依リ補助ヲ受ケタル市町村ニシテ罹災救助ノ爲市町村罹災救助資金ヲ支出セムトスル

第一條 市町村罹災救助資金補助規則ニ依リ罹災救助基金ヨリ補助ヲ受ケムトスル市町村ハ別記準則ニ基キ市町村罹災救助資金條例ヲ設ケ知事ノ認可ヲ受クベシ 之ヲ改正セムトスルトキ亦同ジ

ノ種類數量及金額等ヲ詳具シ知事ノ認可ヲ受クベシ 但シ急施ヲ要シ其ノ邊ナキトキハ直チニ避難所ノ開設、焚出、治療

運搬其ノ他必要ナル措置ヲ爲スコトヲ得
 前項但書ノ場合ニ在リテハ速ニ其ノ狀況ヲ知事ニ報告スベシ
 第三條 知事前條ノ救助ヲ不適當ナリト認ムルトキハ更正ノ上之
 フ認可シ又ハ必要ナル指示ヲ爲スコトアルベシ
 第四條 市町村罹災救助資金補助規則第十二條ノ規定ニ依リ市町
 村罹災救助資金ヲ一般會計ニ繰入レ使用セムトスルトキハ同
 條ノ規定ニ依ル繰戻ノ方法ニ付併セテ市町村會ノ議決ヲ經知
 事ノ認可ヲ受クベシ
 繰戻ノ方法ヲ變更セムトスルトキ亦同ジ
 第五條 市町村罹災救助資金補助規則ニ依リ補助ヲ受ケタル市町
 村ハ年度初ニ於ケル罹災救助資金現在高ヲ別記様式ニ依リ毎
 年度五月末日迄ニ知事ニ報告スベシ

附 則

本規程ハ昭和十五年四月一日ヨリ之ヲ適用ス
 大正五年三月訓令第十二號市町村罹災救助資金監督規程及昭和五
 年六月訓令第九號第三次市町村罹災救助資金監督規程ハ之ヲ廢
 止ス

別記様式

罹災救助資金現在高調

昭和 年 月 日現在

市 町 村 名

項 目	金額及戶數	備 考
罹災救助資金總額	圓 錢	
內 譯 證 券	圓 錢	
預 金	圓 錢	
一 般 會 計 繰 入 金	圓 錢	
現 金	圓 錢	
昭和十五年四月一日ニ於ケル部内總戶數	戶	
一戶當資金現在額	圓 錢	

注 意

一戶當資金現在額欄ニハ資金總額ヲ昭和十五年四月一日ニ於ケル部内總戶數ニテ除シタル商ヲ記入スルコト

別 記

市町村罹災救助資金條例準則

何市(町)(村)罹災救助資金條例

第一條 本市(町)(村)内ノ住民ニシテ災害罹ニリ救助ヲ要スルモ罹災 助基金法第二條ノ範圍ニ屬セザル者ナルトキハ本條例ノ規定ニ依リ之ヲ救助ス
 第二條 本市(町)(村)ハ前條ノ罹災救助資金トシテ蓄積額ガ年度初ニ於ケル戶數ニ付金五圓ニ該當スル額ヲ最少額トシ其ノ額ニ達スル迄毎年度(市)(町)村費ヨリ一戶ニ付五十錢以上ニ該ル金額ヲ積立ツルモノトス 最少額ニ達シタル後之ヲ下ルニ至リタルトキ亦同ジ
 第三條 前條ノ積立ハ財政ノ窮迫其ノ他止ムラ得ザル事由アルトキハ市(町)(村)會ノ議決ヲ經知事ノ認可ヲ受ケ之ヲ減額又ハ停止スルコトヲ得
 第四條 罹災救助資金ハ特別會計トス
 第五條 罹災救助資金ハ國債證券、地方債證券、勸業債券、日本興業銀行債券、農工債券ノ應募若ハ買入レ又ハ郵便貯金若ハ確實ナル銀行預金トシ之ガ増殖ヲ圖ルモノトス
 第六條 罹災救助資金申年度初現在戶數一戶ニ付金壹圓ニ該當スル金額ハ現金又ハ郵便貯金若ハ確實ナル銀行預金トシテ之ヲ保管スルモノトス

第七條 罹災救助資金ヨリ生ズル收入ハ總ベテ罹災救助資金ニ編入スルモノトス 罹災救助資金ノ管理ニ要スル費用ハ罹災救助資金ヨリ支出スルコトヲ得ズ

第八條 罹災救助ノ爲罹災救助資金ヲ支出スベキ費目、支出額及給與方法ハ罹災救助基金法及本縣罹災救助基金ノ支出ニ關スル規定ヲ準用ス 但シ時宜ニ依リ現金ヲ支出スルコトアルベシ

第九條 罹災救助資金ノ蓄積額ガ第二條ノ最少額以上ニ達シタルトキハ毎年度其ノ前前年度ニ於テ資金ヨリ生ジタル收入ヨリ其ノ年度ノ救助費及資金運用上ノ損失ヲ控除シタル殘額ノ二分ノ一以內ノ金額ヲ限リ該最少額ヲ下ルニ至ラザル範圍内ニ於テ之ヲ救護法施行ニ要スル經費ニ充ツルコトヲ得

第十條 市(町)(村)ノ永久ノ利益トナルベキ事業ノタメ又ハ天災地變ノタメ必要アルトキハ市(町)(村)會ノ議決ヲ經テ資金蓄積額中第二條ノ最少額ヲ超過スル金額ニ限リ之ヲ一般會計(繰入運用)スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ繰入運用シタル金額、翌年度以降ニ於テ第二條ノ積立ニ準ジ一般會計ヨリ一ヶ年百分ノ五ニ該ル金額ヲ加ヘ繰戻スモノトス但シ知事ノ認可ヲ受ケタル場合ハ百分ノ五以下トナスコトヲ得

第三條ノ規定ハ前項ノ繰戻ニ付之ヲ準用ス

附 則

本則ハ昭和十五年四月一日ヨリ之ヲ適用ス
 當分ノ内罹災救助資金ノ蓄積額ガ第二條ノ最少額以上ニ達シ特別
 ノ事情アル場合ニ於テハ知事ノ認可ヲ受ケ第九條ニ規定スル殘額
 ヨリ同條ノ規定ニ依リ支出シタル費用ヲ控除シタル金額ヲ限リ該
 最少額ヲ下ルニ至ラザル範圍内ニ於テ之ヲ社會事業及其ノ助成ニ
 要スル經費ニ充ツルコトヲ得

昭和十六年三月卅一日印刷
 昭和十六年三月卅一日發行

發行所 鳥取縣鳥取市東町
 鳥取縣氣高郡大正村大字古海
 印刷所 鳥取縣鳥取市東町
 支所 縣

總務部

00118

鳥取縣公報

訓令

昭和十六年三月三十一日
號 外

月・曜日

本書ノ大キサハ定規格A列

◇鳥取縣訓令甲第八號

大日本青少年團ニ關スル件

市町村
青年學
小學校
校長

最近青少年團體ノ實績極メテ顯著ナルモノアルハ邦家ノ爲洵ニ喜ブベキ所ナリ然レドモ國家内外ノ情勢ニ鑑ミ青少年ノ教養訓練ノ徹底ヲ圖リ國家興隆ノ根基ニ培フノ要今日ヨリ急ナルハナク特ニ現下喫緊ノ要務タル高度國防國家體制建設ノ要請ニ即應セシムル爲ニハ青少年團體ヲ統合シテ學校教育ト不離一體ノ下ニ強力ナル訓練體制ヲ確立スルノ要緊切ナルモノアリ文部省ニ於テハ豫テ關係團體ト之ガ具體案ニ關シ協議ヲ進メ來リタル處今般大日本青年團、大日本聯合女子青年團、大日本少年團聯盟及帝國少年團協會ノ四團體ヲ統合シテ新ニ文部大臣統轄ノ下ニ大日本青少年團ノ結成ヲ見ルニ至リ本縣亦之ニ對應シ鳥取縣青年團、鳥取縣處女會及鳥取縣少年團ヲ統合シテ新ニ鳥取縣知事統轄ノ下ニ鳥取縣青少年團ヲ結成シ大日本青少年團地方團トシテ茲ニ新團體ノ發足ニ當リ之ガ運営ノ大綱ヲ示サントス

一 大日本青少年團ノ本旨ニ關スル事項

大日本青少年團ノ本旨トスル所ハ皇國ノ道ニ則リ男女青少年ニ對シ團體的實踐鍛鍊ヲ施シ共勵切磋不拔ノ國民的性格ヲ鍊成シ以テ負荷ノ大任ヲ全ウセシムルニ在リ即チ我が國男女青少年ノ學校外ニ於ケル全生活ヲ教養訓練トシテ具現セシメントスル見地ヨリ全青少年ヲ一元的組織ノ下ニ結合シテ皇國ノ道ニ則リ國家有爲ノ青少年ヲ鍊成スルヲ目的トス

00119

二 組織ニ關スル事項

大日本青少年團ハ皇國青少年ヲ鍊成スルヲ目的トスルヲ以テ之ガ達成ノ爲ニハ其ノ組織機構ヲシテ我が國青少年教育ノ根幹タル青年學校及小學校ト不離一體ノモノタラシメ男女青少年ヲ通ジテ一貫シタル訓練體制ヲ樹立セザルベカラズ是ニ於テ大日本青少年團ハ文部大臣統轄ノ下ニ地方長官ヲ道府縣青少年團ノ團長トシ青年學校長及小學校長ヲシテ夫々單位團ノ團長タラシメ以テ國ノ青少年教育方針ノ一元的貫徹ヲ期セントス故ニ地方團ノ整備ニ當リテハ故ラニ異ヲ樹ツルコトナク右ノ組織方針ニ格遵シ國家青少年教育組織ノ充實完備ニ遺憾ナキヲ期スベシ

三 訓練ニ關スル事項

大日本青少年團ノ訓練ハ國體ノ本義ニ基キ團體的實踐修練ヲ施シ共勵切磋ノ功ヲ積マシムルト共ニ克ク東亞及世界ニ於ケル皇國ノ使命並ニ皇國ノ當面スル内外ノ情勢ヲ明確ニ認識セシメ青少年ノ行動ヲシテ國家目的ノ遂行達成ニ歸一セシムルヲ要ス而シテ訓練ノ實施ニ當リテハ團員ガ概ネ青年學校生徒及小學校兒童タルニ鑑ミ學校教育ト緊密ナル聯繫ヲ保チ相俟ツテ之ガ徹底ヲ期スルト共ニ他面青少年生活ノ實情特ニ生業トノ關係ヲ考慮シテ訓練ノ時期方法等宜シキヲ制シ以テ團員自ラ進んで訓練ヲ受クルヤウカムベシ

四 指導者ニ關スル事項

大日本青少年團ノ使命ヲ達成スルハ一ニ懸ツテ指導者ニ其ノ人ヲ得ルニ在リ仍チ指導者ノ選任竝ニ優秀ナル指導者ノ養成ニ最モ意ヲ用ヒ學校職員其ノ他ノ教育關係者ヲシテ之ニ當ラシムルノ外廣ク各方面ノ適材ニ協力ヲ求メ特ニ第一線指導者ヲシテ常ニ潤達進取ノ氣風ヲ發揮セシメ以テ團ノ發刺清新ナル活動ヲ促進セシムルヤウカムベシ

五 青年團員ノ年齢ニ關スル事項

單位青年團員ヲ普通團員及幹部團員ニ分チタルハ青年團ヲシテ高度國防國家體制建設ノ要請ニ副フベキ訓練團體タラシムルノ趣旨ニ出ツ即チ普通團員ヲ二十歳以下ト爲シタルハ青年學校教育並ニ現下徵兵ノ實情ニ鑑ミ直接訓練ノ對象ヲ此ノ年齢層ニ置キタルモノニシテ二十二歳乃至二十五歳ノ適當ノ者ヲ幹部團員ト爲シタルハ此等ノ者ヲシテ團ノ年少指導者トシテ率先垂範後進ヲ誘導ニ當ラシメ以テ團ノ規律統制ノ強化ヲ圖ルト共ニ其ノ活動ヲ豐富活潑ナラシメントスルニ在リ故ニ團員ノ年齢ニ關シテハ嚴ニ右ニ據ルヲ要ス

00120

六 女子青年團ニ關スル事項

現下我が國ノ情勢ニ伴ヒ女子青年ニ負荷セラレタル任務愈々重キヲ加ヘタルニ鑑ミ女子青年團ノ振興ヲ圖ルハ最モ緊要ナリ仍チ之ガ擴充強化ニ一段ノ努力ヲ致シ眞ニ皇國女子青年タルニ適切ナル團體的實踐修練ヲ施スコトニカムベシ尙優秀ナル婦人指導者ノ活動ヲ求メ以テ其ノ實績ノ向上ヲ圖ルベシ

七 少年團ニ關スル事項

少年團ハ小學校ト相俟ツテ兒童ニ團體的實踐修練ヲ施スモノニシテ其ノ活動ニ期待スルトコロ多シ而シテ團員ガ年少者ナルニ鑑ミ之ガ指導運営ノ萬全ヲ期セザルベカラズ仍チ其ノ組織ニ當リテハ特ニ此ノ點ニ留意シテ之ガ普及ヲ圖リ健全ナル發達ヲ期スベシ

八 經費ニ關スル事項

大日本青少年團ノ經費ハ國庫及道府縣市町村等ノ補助金寄附金基金利子等ヲ以テ支辨スベキ方針ナルニ付團員ヨリ團費ヲ徵收スルコトハ特ニ其ノ必要アル場合ノ外之ヲ避クベシ
以上ハ大日本青少年團ノ運営ニ關シ大綱ヲ舉示セルモノナリ市町村長、青年學校長及小學校長ハ宜シク此ノ趣旨ヲ體シ關係地方團ノ整備擴充ヲ圖リ以テ其ノ使命ヲ達成セシムルニ遺憾ナキヲ期スベシ

鳥取縣知事 八 田 三 郎

昭和十六年三月三十一日